

法人（事業所）理念	えがおで咲かせる、ひとりひとりの「できるよろこび」	営業時間	9時30分から17時
支援方針	・集団療育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用意し、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多岐にわたります。） ・他者のかわりを重点に、コミュニケーション能力やルールを吸収する力を充実させます。 ・音楽や体操、絵本などの遊びを通して情報を豊かにします。 ・「サービス」ではなく「ホスピタリティ」でお子様に寄り添います。	送迎実施の有無	あり なし
	ねらい	支援内容	具体的な活動や支援内容
健康・生活	(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活リズム・生活習慣の形成 (c) 基本的生活スキルの獲得	(a) 健康状態の把握 健康を中心とした生活でより健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の異なるチェックと必要な対応を行なう。その際、意想表示が困難であるお子さまの状態の特徴及び発達の段階・特性に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づくよう、きめ細かな観察を行なう。 (b) 健康の維持 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健常な生活の基本となる食事をむちの育成に努めるとともに、楽しんで食べるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下・姿勢保育・自筋具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全な生活環境を整える。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的生活スキルの獲得 身のまわりの環境の理解の実習、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。 (e) 構造化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。	来所時に体温測定を行い、健康状態を確認します。始まりの会では、健康状態や気持ちは表現を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちは表現できるよう促します。困りがある際は、気持ちの絵カードや言葉のモデルを示し、自分で表現できるよう支援します。また、日常生活に必要なスキル（排泄、着替えなど）の習得を支援し、教室内の日課に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。
運動・感覚	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用	(a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 日常生活における姿勢や運動の基本を身に付ける。下肢運動・動作の改善及び首筋・関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 姿勢の保持に各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。 (c) 身体の移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、歩行器や車椅子による移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保有する感覚の活用 保有する感覚を最大限に活用する。特に、手の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の援助及び代行手段の活用 保有する感覚器官を活用して操作をしやすくなる眼鏡や補助器具等の各種の感覚機器を活用できるよう支援する。 (f) 感覚の援助（感覚の過敏や鈍感への対応） 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍感）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。	体操などを通じて、日常生活に必要な動作の基となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指します。サークルなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を実施します。筋力・持久力・柔軟性などの運動能力を高めます。注目して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行います。色々な形や色なるブロックや絵本などの教材を使って、視覚的に理解する力の向上を促します。様々な楽器や音を使う活動、リズムに合わせて体を動かしたり、音や聞き分けにたりける活動を通して、楽しい活動の中で聴くことや聴いて理解する力を促進します。
本人支援	(a) 認知・行動の習得 (b) 空間・時間・数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	(a) 感覚や認知の活用 視覚、触覚、聴覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を探集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の連携 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につながるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手掛けりとなる概念の形成 物の形や量感、形・色、音がわかる様子や時間・空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛けりとして活用できるよう工夫する。 (d) 教量・大小・色等の習得 数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の偏りを踏まえ、自分に入っている情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。	買い物や料理を通じてお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。繪本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間・数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与えて、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。
言語 コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 空間・時間・数等の概念形成の習得 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用	(a) 言語の形成と活用 開拓する言葉の範囲を広げ、言葉を組みつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 受容言葉と表現言葉の支援 話の言葉や各類の文章・記号等を用いて、相手の意思を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表現する支援を行なう。 (c) 人と人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における、人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含むコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指示語・身体言葉・サイン等を用いた環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読解能性への向上のための支援 発達段階のお子さままで、障害の程度に応じ読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵柄等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。	お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が意味を理解し応答しながら、遊びややりとりを通じて人の心を広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、実際にものを見たり触れたりしながらここでの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通じて楽しくことは学べる環境を提供し、日常生活で新しいことに挑戦したり、興味をもつける機会をつくります。また、「貸して」「いっしょに遊ぼう」といった言葉を交換する環境や、歌や踊りで表現する機会を提供します。
人間関係 社会性	(a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加	(a) アタッチメント（愛着行動）の形成 人との関係性を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。 (b) 模倣行動の実習 遊び等を通して人の動きを模倣することにより、社会性や人間関係の芽生えを支援する。 (c) 遊び場所遊びから家庭遊びへの移行 感覚機能をもつた遊びや運動機能を駆使する遊びから、見立て遊びやつまつ遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (d) 一人遊びから集団遊びへの支援 周囲の子どもがいても関係ない一人遊びの状況から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊び等を通して人の動きを模倣することにより、社会性や人間関係の芽生えを支援する。 (e) 自己の行動の理解と行動の調整 大人が介在して自分でできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるよう支援する。 (f) 集団への参加への支援 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。	事前に視覚的な手掛かりをして丁寧に説明し、お子さまが安心して園庭活動に参加できるよう支援します。少人数での体操やゲームなどの活動を通じて、社会性の向上を実現します。またお子さまが他の児童への理解や理解、受け入れるための態度が身につきます。また、「貸して」「貸して」「貸して」といった言葉が回る環境の中で練習を行い、言葉で伝えるスキルや相手のタイミングに合わせる。先の見通しを立てて順番を持つ等のスキルの定着を図り、感情のコントロール方法を学んでいく。
家族支援	・個別療育や集団療育にて行った活動の内容を送迎時（お迎え時）や、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。 ・6ヶ月に1回程度、モニタリングとは別で面談の機会を設け、保護者に共有していただきます。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行います。	移行支援	・必要に応じて学校（園）に訪問し、児童との関わり方にについて情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子を他事業所や相談支援に紹介し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・学校（保育園・幼稚園）での送迎や先生と学生（園）との情報交換を行います。
地域支援・地域連携	・隣接機関で役割分担し、情報を共有を行います。 ・連携会議を定期的に開催し、情報収集・役割分担に開催して協議します。 ・各専門機関の情報を基に、具体的な場面での関わり方や、困りごとにに関しての提案やポイントを共有します。 ・セルフプランの方には利用計画のコーディネートの中核を担う事業所の開催する会議に参画し、情報共有を行います。	職員の質の向上	プロッサムグループ本部にて下記研修実施 ・アタッチメント修習 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・虐待防止研修 ・身体拘束適正化研修 ・感染症対策研修 その他 児童発育ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施
主な行事等	・季節の行事 ・近隣施設や公園への外出活動		